柴田は秘密を知る一人。
恩恵を受け、一時的に裕福になったが無茶な事業（店舗）の拡張をし、借金生活。
あと１０００万円必要なところ、奥田から渡されたのは６００万円。
柴田は不平を持つ村の連中と組みギーノとの交渉権を受け取ろうとする。
柴田の仲間には警察も反社会勢力もいる。
奥田を殺害することも選択肢に入れている。
深夜、柴田の経営する飲食店に「村の未来についての話」と奥田を呼び出した。
座っている奥田に対し、歩き回り尋問する柴田。
※奥田は、もし人間がギーノを脅迫したり危害を及ぼしたりしたら、すぐに報復を受けることがわかっている。イメージで伝えられている。

柴田「いつも、希望した全額が出ないのはどうして？」
奥田「金額を決めるのは俺じゃない」
柴田「交渉をしてるのは、あなた」
奥田「交渉じゃない、お願いに対してお金が出てくる」
柴田「……（溜息）」
奥田「なに」
柴田「……交渉、してないの？できないの？」
奥田「ええ？」
柴田「重要なところだから答えて」
奥田「……なにか、不満？」
柴田「……不満じゃない」
奥田「……」
柴田「意見」
奥田「言って」

柴田、奥田の対面に座る

柴田「……私だけじゃなくて、みんなの意見ね」
奥田「……言って」
柴田「……まず、永遠には続かないと思うのね、こんなこと」
奥田「……まあ」
柴田「だから」
奥田「うん」
柴田「……もっと、取るべきじゃない？お金」
奥田「（鼻で笑う）」

柴田「おかしい？」
奥田「いや」
柴田「今、このチャンスを利用して、自分たちでお金を回す仕組みを作るようにしたほうがいいと思うのね」
奥田「……無理だね」
柴田「どうして」
奥田「……説明できない」
柴田「みんなの意見よ？」

奥田、席を立つ

奥田「少しでも続けたいなら、ただ、受け取る」
柴田「……」
奥田「変な申し出をして、関係を壊したくない」

奥田、部屋を出ようとする
柴田、立ち上がる

柴田「待って。まだ大事なこと話してない」
奥田「……なに」
柴田「あなたが出来ないなら、私たちに、直接交渉させて」
奥田「……俺が、うまくバランスとってやってるの、わからないのか？」
柴田「あなたじゃ損害が止まらない」
奥田「損害？６００万もらったんだろ」
柴田「マイナス４００万。私は１０００万って言った」
奥田「知るかよ」

柴田、拳銃を出す

奥田「……俺を脅してもどうにもならない」
柴田「久保（警察）も山下（やくざ）も私と同じ意見なのね」
奥田「……」
柴田「意味わかる？撃っても事件にはならないからね」
奥田「……バカなことしてるってわからないのか」
柴田「……従うか、撃たれるかしか、選択肢はないよ」
奥田「……知らないぞ」